



狭山の暗渠

【あんきょ】

春ともなれば南海高野線の狭山駅と大阪狭山市駅の間を一面見事なピンク色に染める桜並木が有名ですが、この桜の木の植わる高架状の線路の敷かれた堤、その長い築堤の横腹に垣間見えるレンガ作りのアーチ。どこかヨーロッパの片田舎の田園風景を思わせるような雰囲気を持つそのレトロなアーチは、その下を人や車が通れる隧道（トンネル）となっていて、この間の築堤の横腹にはこのようなレンガ巻きのトンネルが大小合わせて7ヶ所開いています。この7つのトンネルを地元の人たちは「暗渠」と呼んでいます。AGUA今月はこの「暗渠」を特集に取り上げました。

そもそも暗渠とは

「暗渠」という言葉を辞書で引いて見ると「灌漑、排水などのために地下に設けた覆いをした水路」という意味が載っていますので、本当は人や車の通路となっていたこれらのトンネルは先にも話したように「隧道（トンネル）」と呼ぶべきなのかもしれないですが、ずうーっとそれを「暗渠」と呼んできたその理由を大

阪狭山市の教育部歴史文化グループ・主査学芸員である吉井克信さんに伺ってみました。「そもそもこのあたりは土地が低く、大雨になると線路が水没してしまいます。そこで堤を築いてその上に線路を敷いたのですが、築堤が出来るのと困る人たちもいました。それはこの近辺で農業を営む人たちで、堤が出来ると農地が分断され田畑への水の送

りや重い農耕機具の運搬、又田畑を耕す耕牛を連れてゆくにも、産物の運搬にも高い築堤の上に作られた踏切は渡るのが困難です。そこで当時の高野鉄道に意見書を出し、水路や通路となるトンネルを作ることになったそうです。地元の人たちはそのような理由で、もともと「暗渠」と呼ばれる水路は、トンネルの地下に作られているのですが、人や車の通る「隧道（トンネル）」と呼ばず、通路の足許を流れて田畑を潤す水路の働きを大切に思い、このレンガ巻きのトンネルを「暗渠」と呼んでいるということなのです。そしてこの7つの「暗渠」は人や車の行き交う通路として、又、水だけ流れる水路として今も活躍しているのです。」と嬉しそうに、誇らし気に話してくれました。

吉井さんは大阪狭山市立郷土資料館が2002年に開催

した「狭山を変えた鉄道」—— おおさかさやま交通ものがたり—— 特別展をプロデュースされ、この狭山の「暗渠」の歴史や1号暗渠から7号暗渠の建築技術の土木史的な研究をされているので、簡単に説明していただきました。

狭山の「暗渠」の歴史は南海電鉄高野線の開業の歴史と重なっているのです。それを辿ると、狭山—河内長野間は1898（明治31）年4月に開業した区間なので「暗渠」もその時点で作られ、初めは単線であったのが、1937（昭和12）年に複線化が行われ東側にコンクリートの継足がなされました。

狭山の「暗渠」1号は狭山駅を下車、線路沿いの坂を下ったところに現存し、南海高野線第40号拱渠の名称がつけられています。以下7号まで写真と説明でご覧下さい。

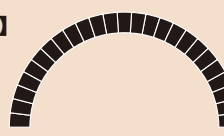


【ひずみについて】
上図は暗渠の安全を保つ為に毎年計測されるレンガ積みのひずみ幅の数値を記したものです。

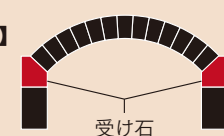
用語解説

【暗渠】 覆いをした水路。灌漑・排水などのために地下に設けた溝。
 【開渠】 上部に開けはなした水路。鉄道または軌道の下を横断する道路や水路で横断部分が覆われていないもの。
 【拱渠】 アーチ型の水路。石やレンガを弓なりに積んで重さを支えるアーチを意味する「拱」と、地面を掘って水を通す意味を持つ「渠」を合わせた言葉。

【半円アーチ】
はんえん



【欠円アーチ】
けつえん



受け石

参考資料

- 『狭山を変えた鉄道——おおさかさやま交通ものがたり——』大阪狭山市立郷土資料館
- 『鉄道ピクトリアルNO.615(特集)南海電気鉄道 南海電鉄高野線のレンガアーチ橋を訪ねて』鉄道図書刊行会 小野田滋氏執筆
- 『レンガ造りの暗渠お散歩MAP』大阪狭山市商工会2010



3号暗渠
狭山里道暗渠
半円アーチ断面採用



2号暗渠
第41号拱渠・南海高野線名称
断面は欠円アーチで設計されているのが特徴。スプリングラインに迫受石を設けている。欠円アーチはある程度の径間を維持し空頭を確保する設計。



6号暗渠
第43号拱渠
径間、構造ともに1号暗渠とほぼ同じであるが空頭はさらに低く、身をかがめて通るのがやっとな。畦道の一部として一部の人が使っている。



5号暗渠
狭山里道架道橋
径間6.10m(20フィート)の堂々たる架道橋で高野線全線を通じて最大のアーチ構造物で、空頭を確保するため欠円アーチを採用。アーチ端部のレンガは5枚巻と厚くなっている。



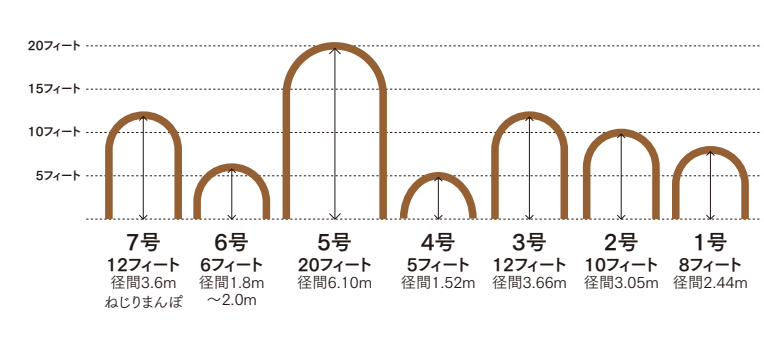
1号暗渠
第40号拱渠・南海高野線名称
レンガの積み方はアーチ部分長手積、他は側壁、抗門、翼壁ともにイギリス積み。



4号暗渠
第42号拱渠
狭山里道暗渠と狭山里道架道橋の間の住宅地に隠れてひっそり存在する拱渠。もっぱら水路用として用いられている。くぐり抜け不可能。



7号暗渠
東除川暗渠
ねじりまんぼ
線路方向に対して斜めにアーチを架けるためにアーチ部分のレンガをねじって積んだ「ねじりまんぼ」の構造。線路の下を左60度の交差角で横断。断面は正径間3.6m(12フィート)の単心円。側壁とアーチの部分接続工事難。



今回はAGUAの編集スタッフが自らの足で1号から7号までの「暗渠」を探し訪ね、今から120年も前に作られた土木建造物の技術力の高さや赤いレンガ積みアーチの持つデザインや洒落た感覚に驚きました。そして狭山の「暗渠」は郷土の誇れる素晴らしい文化遺産であるとの意を強めました。その為にも、それぞれの「暗渠」とその周辺の整備と美化にもっと市民が力を注ぎ、観光スポットとしても更なる展開が必要であると痛感しました。